

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291200063		
法人名	有限会社 大東		
事業所名	グループホームほのぼの新館		
所在地	長崎県東彼杵郡東彼杵町平似田郷2342-1		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 6 日	評価結果市町村受理日	令和3年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方が住み慣れた地域の中で安心して暮らして頂けるよう令和元年7月に2ユニット目をオープンしました。ホーム内は職員、入居者共々和気あいあいとした雰囲気です。毎日の健康体操は勿論の事、高齢者脳トレクイズなど皆さん積極的に参加され声高に回答される等いきいきとした表情が伺えます。又、ホームの周囲は散歩道があり、回廊となっている為、季節の花々を眺めながら職員と共に散歩を楽しみ適度な運動となり満足してもらっています。施設は2階建てとなっており2階は相談室や会議室となっておりますが非常時の為の避難場所として活用しておりホームエレベーターを設置し移動が困難な方にも安全に避難して頂くよう配慮しています。今後は地域包括の拠点としての体制づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは令和元年7月に関連事業所であるグループホームほのぼの本館の新館として開設した。ホームの入居者や職員は本館同様地元の方が多く、入居者は顔馴染みで気心の知れた関係性を築いている中で穏やかな日常生活を送っている。現在、コロナ禍の影響により外出活動を自粛しているが、ホーム周囲に四季折々の花や木々が植栽した回廊式の庭園を施し、石造りのテーブルや椅子を要所に配置することで入居者が散歩したり休憩したりと思おもいに過ごせる環境を整えている。ホームではYouTube等を活用した健康体操や脳のトレーニング、バーチャル電車運転など趣味活動の拡充を図っており、入居者本人ができること・やりたいことを積極的に参加できるよう工夫することで本人の能力を引き出す支援に努めている。代表・管理者・常務は地域の福祉活動にも積極的に取り組んでおり、地域からの期待に応えながら地域とともに発展して行くことを念頭に、今後も地域に根付いた支援が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 ほのぼの新館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔のある暮らしを支えるという理念のもと、管理者職員共々共有して実践している	ホームでは入居時にホームで生活する上での希望や要望等を入居者や家族へ聞き取り、入居者の思いや生き方を尊重しながら住み慣れた地域の中で笑顔ある暮らしができるよう実践に努めている。月1回の職員会議ではホーム理念に沿った支援が実践できているかを確認し、振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほとんどの利用者が近隣の方々と日ごろから地域とつながって暮らしおられ、事業所・経営者・管理者ともども地域の住民として日常的な交流がある	町内の回覧板を入居者にも閲覧してもらえるよう取り組むほか、常務が地元消防団員や商工会青年部に所属し、地域との交流を深めている。今年10月には地元中学校からの依頼で中学生やその保護者を対象とした「事業所の特色を活かした車椅子介助やコミュニケーション技法」などの講習を実施し50～60人の参加があるなど、年間を通して地域との付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム周辺を散歩するにあたって認知症の人への理解を深めてもらえるよう努め、近隣の方々も温かく見守ってくださっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、地域の役員、消防団長、民生委員の方々と町の担当を交えサービスの実際評価等ご意見をいただき、質の向上に生かしている	運営推進会議には町介護保険課職員、地域包括支援センター職員、地域役員、第1・第2消防分団団長、現・元民生委員が構成メンバーとして参加しており、現在はコロナ禍の影響で書面会議としている。消防計画作成時には地域の消防団団長から意見を聞くほか、各メンバーから助言を得たりホームから情報提供を行ったりするなど、活発な意見交換ができています。	今後の取り組みとして、例えば年初に年度分の議題やテーマを設定し、議題やテーマに沿った出席者や講師の依頼を検討するなど、より充実した会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な事業者会議に出席し、ケアサービスの実際を伝えて協力関係を維持している	行政とは各種申請書等の提出で窓口へ直接出向くほか、運営推進会議やグループホーム連絡協議会を通じて情報交換や意見交換を図っている。また、ホームの空床状況を地域包括支援センターへ報告するなど行政その他各機関と連携し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化のための指針に基づき委員会を3ヶ月に1回行い、全職員に指針を把握してもらっている。またスタッフ会議の席で勉強会を行っている	身体拘束適正化についての指針を掲げ、ホーム全体への周知を図っている。身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催するとともに、身体拘束についての勉強会を開催することで身体拘束に関する職員の意識付けを図り、適切な支援についての周知や理解に努めている。	職員が日々の介護実践の中で身体拘束に該当する11項目と3原則、3つのロックについて心掛け、意識付けられるよう簡易マニュアルを作成するとともに、その都度振り返りができるように身近な場所に設置するなど、職員が日頃から身体拘束について意識を持って支援ができることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の勉強会と同時に虐待防止の勉強会も行い、職員間で共通認識を持って取り組んでいる。CD研修も取り入れている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1、2回権利擁護に関する自主研修を行い、職員間で共有し事例に即時対応できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は利用者様、ご家族様ともに十分な説明を行い、納得していただき入所につなげている。解約時も同様である		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の活用や、利用者に直接要望を聞いたり家族会を開き、家族の意見を聞くなどして運営に反映させている。ホーム独自のアンケート調査も実施している	年1回の家族会開催に合わせて家族アンケートを実施し、家族の意見を把握するよう努めており、管理者が家族と連絡を密に取ることで家族との信頼関係を構築している。家族との面会時に聞き取った情報は管理者への報告、並びに業務連絡ノートに記録し他職員も閲覧・サインを残して情報を共有している。また、必要に応じて介護計画に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の席で意見を求めたり、直接職員の意向を聞くなどして、運営サービスの向上に反映させている	ホームでは月1回の職員会議を通じて職員から挙げた運営上の意見や提案を検討し、入居者への支援に反映するよう努めている。また、3か月に1回、夜間に会議を開催した場合には時間外手当を支給することで、全ての職員が会議に出席できるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握して、勤務形態の考慮、賃金アップを図るなど、やりがいのある職場となるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者と連携し、職員の力量に合わせ、内外の研修へ参加させ資格取得への支援を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム間でテーマを決め、管理者・ケアマネ・介護職員の持ち回りで会議を行い、ケアの質向上を目指し活動している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人やご家族を交え困っていることなどを傾聴し、丁寧な説明を行い信頼関係を築く努力をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の検討をされている段階で本人の思いを訪ね、また家族の要望等も傾聴し信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人にとって1番必要とされている支援は何かを見極め、適切に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が日々の暮らしに生きがいを見出せるよう、自分にできることをやれて楽しい事など積極的に関わってもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会制限を行っているが、ご家族様はある程度自由にホームへ出入りされるよう対応している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	住み慣れた地域の行きつけの場所等利用者の気持ちに沿って同行したり、友達関係等も大切にしている	ホームでは入居時に入居者本人の生活歴やこれまでの生活状況を把握するとともに、ホームでどのような生活を送りたいのか本人及び家族から聞き取り、実現できるよう努めている。職員は入居者が抱く思いや望む生き方を尊重し、住み慣れた地域の中で笑顔ある生活が継続できるよう日々の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く会話されているときは静かに見守り、難聴で聞き取りにくい片方は間を取り持つなど支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所された場合でも地域の中で家族との関わりも多く、本人の様子等を訪ね相談に応じることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らし方を聞き取りホームの暮らしに差を生じさせないよう、本人の立場で快適な暮らしができるよう支援している	入居者や家族から真の意向は聞き取り難いことを踏まえ、職員が日頃の入居者支援の場面から入居者本人の思いや意向を汲み取るよう努めている。また、家族に対しては面会時の会話や電話連絡の際に意向等を聞き取り、必要な情報はケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴やなじみの暮らし方等入所時書面にて報告してもらい、ここに至るまでの経過を把握して援助している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中でその方にできないことを見極め、適切な介助に当たっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のより良い暮らしを実現するため、本人の要望や家族の希望等を聞き取り、現場に即した介護計画を作成している	ケアプランは『安心と安らぎを基本とした生活』を念頭に置いて作成しており、プランのサービス内容と日々の入居者支援が連動するようホーム独自の実施記録を作成している。職員もサービス内容毎に支援内容を細やかに記録しているためモニタリングやアセスメントもしやすく、次回プラン見直しの際に目標達成度によって継続・変更するのかが容易に分かるよう様式を工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録や業務日誌、ケアプラン管理表に記入し、職員間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態の変化に合わせてその時に必要な支援を見極め、他のサービスも視野に入れ家族に相談するなどしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで暮らしてこられた行きつけの美容室に定期的に行くなど、地域の方と触れ合いを大切にしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時本人や家族からこれまでのかかりつけ医の有無を訪ね、納得される医療連携ができるよう十分な聞き取りをして決めている	入居者は月2回ホーム提携医による訪問診療を受けている。他科への受診については家族が同行しているが、家族が同行できない場合や入居者の状況に応じて管理者や近隣の系列グループホームと兼務している看護師が受診の同行支援を行う場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の身体状況を専従の看護師に報告し、受診の可否等指示を仰ぎ連携を密にしており、不在時は看護師申し送り簿に記載している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された場合は病院関係者と連携して情報共有に努め、早期退院に向け関係づくりを密にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合、終末期のあり方と家族の意向を重視してホームでできることを充分説明の上で介護にあたる	入居者の看取り期については医師が判断しており、会議を開いて家族へ説明し意向を聞き取るほか、入居者本人の身体状況に関する詳細な記録を家族が読めるよう居室に置いている。また、入居者が経口栄養摂取が困難となった時点で家族から再度意向を聞き取り、医師に紹介状を書いてもらい入院することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備えたマニュアルを作成し、スタッフ会議で勉強会を行ない緊急時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害が発生した場合は高台にある町管理施設に避難することとしており、7月豪雨の際実際に避難を行い救援物資等もいただき貴重な体験となった	ホームでは定期的に消火、避難訓練を実施しており、常務が所属する地域の消防団と有事の際の協力体制を築いている。訓練では消防署指導のもとでAEDを使用した救命訓練を実施している。今年7月の集中豪雨の際には系列グループホームと合同で行政指定の避難所へ実際に避難したほか、避難時の課題の抽出や改善に向けた話し合いを行うなど、災害について高い意識を持っている。	避難時の緊急持ち出し一覧表を作成しているが、例えば、介護・医療保険情報の追記や入居者の日頃のADL状態が確認できる全身写真の貼付掲載など、避難した先でも入居者の情報をより把握しやすいよう一覧表を工夫することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに人格を尊重した言葉遣いを行い、年に1度勉強会を行うなどしてプライバシーに配慮した介助を行っている	職員は排泄を失敗した際に他の入居者に気付かれないようさりげない声掛けを心掛けており、排泄後に出た汚物を直接廃棄できるようトイレ横にドアを設置したことで、迅速な処理や羞恥心への配慮にも繋がっている。居室入室時にはノックと声掛けを行い、視線や声のトーンについても入居者個々に応じた関わりを持つよう努めている。メモ等の個人情報の処理については記録物に転記した後、シュレッダーで破棄している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様にはいつでも思いや希望等を表現してもらおうよう働きかけており、気軽に要望される場面が多々ある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様ごとに1日の流れに沿って、自分のペースを大事に暮らしておられている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時はその方にあった服装選びから整髪、身だしなみに至るまで本人の希望に沿った支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食事量に合わせて提供し、調理等も共同で取り組み後片付けまで積極的に関わる方もおられる	ホームでは1か月分の献立を系列グループホームと交互に担当し作成している。食事は早出が朝食を担当するなど勤務帯で割り振っており、食材や調味料等の購入は3日に1回管理者や常務が行っている。買い物の際には入居者に声掛けし、入居者好みの物を購入する場合もある。不足している食材等はホワイトボードに記入するなど充実した食事内容となるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や栄養バランス水分量をチェック表に記入し、1ヵ月トータルでわかるよう観察記録表に記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事時間が終わったらすぐに洗面所へ誘導し、磨き残しがないか口腔内のチェックなど口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方のできることでできないことを見極め支援しながら清潔保持を心がけている	職員は各入居者の排泄タイミングを把握し、トイレへの声掛けや誘導を適宜行うことで入居者がトイレで排泄できるよう支援に努めている。排泄の失敗に関してはトイレと浴室がフロアに繋がっているため、清拭やシャワー浴など直接誘導することができ、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	観察記録表を用いて便秘が続いた時を確認し、利用者の状態に合わせた予防策に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてあるが、本人の希望や体調に合わせて日にちや時間の調整をするなど個々に沿った支援をしている	ホームでは週2～3回の入浴日を決めているが、入居者の体調不良や入浴の拒否があった場合は代替日を設け、希望に沿った入浴支援を行っている。管理者のこだわりでトイレと浴室を繋げる経路を工夫しており、入居者が排泄後に浴室へ直接移動することで入浴の一連の動作への煩わしさを払拭し、入浴を楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は早めの就寝が生活習慣となっている方が多く、個々の差はあるが短時間昼寝をされる方もおられるなどゆったりした時間の流れがある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人が服用している薬の効能・用法・薬品名を記入した服薬管理表を見やすい場所に掲げ、副作用等に気付けるよう看護師と連携している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性入居者の中に晩酌でビールをたしなまれる方もおられ、入所後も家族同意の上ノンアルコールビールを提供し楽しい食卓を囲んでもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	主に家族の協力で戸外に一緒に出かけ外食される場合があり、利用者の生き生きとした表情が見られる	コロナ禍の影響により、現在は外出支援を自粛している。ホーム周囲には四季折々の花や木々が植栽された回廊式の庭園があり、要所に石造りのテーブルや椅子を配置することで入居者が散歩したり休憩したりと思いおもいに過ごせる環境を整えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては所持を希望される方のみ少額(2~3000円程度)財布に入れてもらい、収支を別紙に記入し家族と共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住む家族から電話があった際は本人と直接話していただき、元気な声を聞かせることで喜んでいただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風呂場やトイレ、居室には表札を下げ場所がわかるようにしている。テーブルには季節の花を飾り、季節を感じてもらえるように整えている。	ホーム内は木の香りや温もりが感じられる環境で、広々としたフロアでは入居者がゆっくりと穏やかに過ごしている。入居者は性別による隔たりなどなく互いに明るく会話を楽しんでおり、笑い声が絶えない。入居者が制作したクリスマスの飾りなど季節の飾りつけがホームの雰囲気をもより一層明るくし、真に「ほのぼの」とした光景が印象に残る雰囲気づくりができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は食堂部分とソファの部分に分けており、気の合う人とゆっくり語る場所を設けるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	教室内は各自収納ケースなどを好きな位置に置いて使いやすいようにしてあり、居心地良く暮らしておられる	各居室には花の名称を用い、入居者本人の居室であることが分かるよう見当識に配慮し、壁の一部にその花を模した色を付けることで、柔らかな雰囲気の中で入居者が混乱なく居心地良く過ごせるよう工夫している。居室には入居者にとって馴染みの物を持ち込むことで入居以前からの生活を継続できるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室別に花の名前をつけそれを目印にされており、トイレや食堂等表示はしているが構造的にわかりやすくなっており混乱なく過ごしておられる		